

2025年度入学試験問題

総合型選抜・社会人選抜

小論文

岡 山 大 学
医 学 部 保 健 学 科
放 射 線 技 術 科 学 専 攻

注 意

1. 解答開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
2. 配付は、問題冊子1冊、解答用紙1冊、下書き用紙2枚です。
3. 問題冊子は、表紙及び問題用紙（2ページ）の3枚あります。
4. すべての解答用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。
5. 解答は、すべて解答用紙の指定されたところに横書きで書きなさい。
6. 下書き用紙は、解答開始の合図があった後に、必要に応じて使用して構いません。
7. 試験終了後、問題冊子と下書き用紙、メモ用紙は必ず持ち帰りなさい。

小論文

問題 1 下記の文章の (A), (B), (C), (D) に当てはまる語句を答えなさい。

対策型検診とは、対象集団全体の (A) を目的として実施するものを指し、公的な予防対策として行われます。このため、有効性が確立したがん検診を選択し、(B) は (C) を上回ることが基本条件となります。対策型検診と任意型検診の大きな相違点は「目的」にあります。任意型検診には、必ずしも対象集団全体の (A) を目的としない、様々な形態のがん検診が含まれます。推奨されていない検診の大半は、(B) を示す証拠が不十分あるいは、(B) と (C) の差が小さいものです。対策型検診は日頃健康に暮らしている住民に公費を用いて行うものであり、(B) がはっきりしないものを提供することにどんな (D) があるのか説明責任があるはずです。また健康に問題が無いはずの住民に公費で (C) を与えてしまうことは絶対に避けるべきです。

出典 国立がん研究センターがん対策研究所HP, <https://canscreen.ncc.go.jp/qanda/iryuu.html> および <https://canscreen.ncc.go.jp/kangae/kangae0.html> (閲覧日: 2024年9月30日) を一部引用・改変

問題 2 対策型検診で腫瘍マーカーを使った胃がん検診を検診対象とせず、胃部 X 線検査を採用する理由を、以下の表 1 と参考文献 1 を用いて、数値とともに説明しなさい。

表 1 胃部 X 線検査の結果

検査陽性 疾患あり	検査陽性 疾患なし	検査陰性 疾患あり	検査陰性 疾患なし
36人	12人	8人	7,504人

参考文献 1

胃がんの腫瘍マーカーの検診精度については、ある研究結果によると感度 80%、特異度 70% と報告されている。

出典 厚生労働省: 第34回がん検診のあり方に関する検討会, 2020, <https://www.mhlw.go.jp/content/10901000/000892488.pdf> (閲覧日: 2024年10月21日) および三木一正: 厚生省がん研究助成金による研究報告集(9-8), 1997より引用

問題 3 がん検診において放射線は有効利用されています。がん検診における X 線検査の妥当性と安全性について放射線の影響とがん検診の科学的根拠の観点を中心に説明した上で自分の考えを 600 字以内で述べなさい。